

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101702
法人名	医療法人 高柳会
事業所名	グループホーム 松風
所在地	群馬県前橋市富田町 1831-7 (電話) 027-268-6100

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	

【情報提供票より】(19年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1月 13日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	11人 常勤 11人 非常勤 常勤加算 8.7人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄骨) 造り 一部 2階建ての 階 ~ 1階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 1,800円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要 (10月20日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4			
要介護5		要支援2	1名		
年齢	平均 86.1歳	最低	76歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前橋城南病院 青柳歯科 高柳医院 赤城病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの運営理念は『地域の中でいつまでも自分が自分らしく生き続けることを支援します』を掲げて、管理者と全職員は理念を理解し、実践する上で、職員自身が立ち戻る原点として、利用者の生活を支援している。利用者と職員は生活を共に協働している。野菜を作る、収穫する、食事の準備、買い物に行く等の生活全般を行ないながら、地域とのつながりを持ち交流がなされている。日常生活で行事やドライブ、花見、野菜作り、食事(外食、お弁当、好きな物等)などの楽しみのある機会が多く、メリハリある生活を送りながら利用者は穏やかに暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ホーム便りを回覧板で地域の方に見てもらい広報をすることが改善課題になり、家族会や運営推進会議等で話し合った結果、地域の方には回覧しない方向ということに決まった。自治会には加入し地域との交流を深めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を伝え、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所からの状況報告や家族会からの意見を話し合っている。事業所前の道路の側溝は危険ではないか、カーブミラーについて、食事時間等の質問等があり話し合い、説明や改善策が講じられている。講演会も開催希望があり「リハビリテーション」について実施されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム便りの発行や担当者からホームでの暮らしぶり等個別にアルバムを作りきめ細かく報告をしている。家族会を定期的に開催し意見や苦情を聞き運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域の祭りや清掃活動等に利用者と職員は積極的に参加をしている。事業所のイベントには地域の方に参加(ボランティアの慰問、餅つき大会等)してもらっている。事業所から積極的に機会あるごとに地域に出向くことや呼びかけを行い交流を深めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から地域を意識した運営理念『地域の中でいつでも自分が、自分らしく生き続けことを支援します』と掲げて、地域との関係性を築きながら利用者の生活支援の取り組みをしてきている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をカンファレンス、職員会議等で常に語り、管理者と職員は共有し、日々、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域のお祭りや清掃活動等に利用者や職員は積極的に参加をしている。事業所のイベント(ボランティアの慰問、餅つき大会等)には地域の方に参加してもらっている。また、事業所から積極的に機会があるごとに地域に出向いたり、呼びかけも行き交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を伝え、全職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。前回の評価の課題の1つであった「地域に向けてのホーム便りの配布」のことは、家族会や運営推進会議で話し合い配布はしないことになった。しかし、自治会に加入し地域との交流を積極的に取り組むようようにしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告や家族会から意見を話し合うようにしている。事業所前の道路の側溝は危険ではないか、カーブミラーについて、食事時間等の質問があり話し合われている。また、講演会(リハビリテーションについて)の希望があり行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市から参加をしてもらっている。市の窓口には頻りに訪れて情報交換を行うなど連携を密にしている。市主催の情報交換会にも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの発行や担当者から1ヶ月の暮らしぶりを便りで送っていることや個人のアルバムを作り家族の来訪時に見てもらいながらきめ細やかに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は開設時から開催されている。家族会の進め方については、管理者等は家族が話しやすいように連絡事項や報告を済ませて席をはずし、内容については代表者から報告を受けている。レクレーションや行事の雰囲気を感じて頂く為にホーム便りに写真を掲載する等の意見を提案している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の固定化に努め、顔馴染みの職員によるケアサービス提供に心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、職員の経験に応じて積極的に参加をしてもらっており、職員会議等で伝達し全職員で共有している。また、研修の情報を知らせ、希望者が研修が受けられるように配慮がなされている。また、資格取得に対しても支援体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック別交換研修の参加や事業所相互の交流を深め、情報交換を行う等連携を密にしてサービスの質を向上させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族の見学、事業所から訪問、併設のデイサービスの利用、体験入居等により、利用者職員が馴染みになるような体制作りや、また、入居になってから馴染むまでは、家族との協力の下で(面会や宿泊等)安心して生活が送れるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援される側、支援する側という意識を持たず、利用者、職員は共に生活する者と考えている。職員は利用者と視線を同じにして、利用者一人ひとりを尊重する対応を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者がゆとりを持って関心を寄せて関わり、話をよく聞くようにしており、また、表情や行動、言動からも思いや意向を把握をし全職員が情報を共有し支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が家族の来訪時に要望や意見を聞いたり、職員の気づきや情報を介護計画に反映させ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的見直し期間は3ヶ月に1度の見直しとしてあるが、日々の変化に応じて毎日のカンファレンスで話し合いその都度、見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や通院、送迎を利用者、家族の希望に応じ柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっており、協力医の訪問診療に月1回来てもらっており、書面で状態の報告を行い指示や助言をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会を通じてホームの基本方針を説明をしており、重度化した場合には、本人・家族の意向確認をする話し合いを持ち、希望に添った納得のいく支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけない環境への配慮や言葉かけや対応で利用者の誇りやプライバシーを損ねないようにカンファレンスで話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先することなく、昼食時には用意が出来るまで待てない利用者に対して先に食事を始めてもらう等、利用者のペースに合わせた対応が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れながら作成をしており、系列の福祉施設の管理栄養士に見てもらっている。食材の買出しや畑で作った野菜を採り、食事作り、片付け等の一連の過程を利用者、職員は共に行ない、味わいながら楽しい雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っており、利用者の希望やタイミングに合わせて支援をしている。週1回であるが、夜間入浴も行っており、利用されている方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や農耕、花の手入れ、洗濯物を畳む、掃除等を利用者の力量に応じてしてもらっている。食事は外食やお弁当等で変化を持たせ、リンゴ狩り、花見、ドライブ、書道等の楽しみや気晴らしの支援をしている。また、嗜好品も楽しむことができるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望に応じ、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物、ドライブ等に出かけ季節を感じてもらっている。。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はセンサーを使用して安全面に配慮し、利用者の自由な暮らしを支援するため鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と職員で避難誘導訓練と合わせて消火訓練もしている。近隣者に協力を依頼し緊急連絡網の編成に入ってもらっている。また、自治会にも依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の内容を管理栄養士に見てもらい助言をもらい食事に反映させている。食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからベランダに出て洗濯物を干したり、ベンチに出て外気に触れる等、外の風を感じる事が出来る。リビングにも季節の花が飾られ、ソファとテーブルが2箇所置かれ、季節感のある利用者の作品・書が飾られている。利用者が筆で書いた献立も掲示されている。リビングから食事作りの様子が良く見え、音や匂い等を感じ家庭的で落ち着いた雰囲気がある。自由にいつでもお茶が飲めるように用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、花、作品、テレビ、ぬいぐるみ以外にも、利用者一人ひとりの馴染みの物を持ち込まれていて個性ある居室になっている。		